

The Reminiscence of Exellia NG+1

最期の赦し

作成レギュレーション

基本概要（新規／継続）

- ・ 経験点：118500／135000 点
- ・ 資金：192000／216000G
- ・ 名誉点：1500／1800 点
- ・ レベル制限：12～13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上
- ・ ステータス制限：各項目ボーナス 12 まで＜上限突破時シンク＞

各種制限

- ・ ヴァグランツ、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0／2.5 標準流派入門禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上のとき、60%以上の割り振りの禁止

動画用メモ

動画末尾の告知（Lap Final）

（BGM：All as One）

エクセリア

「貴様は自分を、唯一の存在だと信じ疑ってこなかった。だから、選べなかったんだ。律に刃向かい、己の意志で物語を描き出すことを。想いで、他者と共に紡がれていく路を…！」

「私は、想いを託された。そして、皆の想いに応えたい。『人が己の物語を築き上げられる場所』をつくるために、守るために。私達がこの世界で、自分の意志で生きていくために！」

「フェニックスの力、使わせてもらおうぞ…！」

エメリーヌ

「次回、The Reminiscence of Exellia Lap Final『エクセリアの追想』」

エクセリア

「私は消尽という、『究極の幻想』を打ち破る…！」

ジョセフ・フルスティン・アウェア

読み上げ：未定

システィナの実父にして医師。人間の男。文字通りの「奇跡の子」であるシスティナを支えるために、《暗魂の暁》に加入している。エクセリアにとっての主治医であると同時に、古き時代の遺構である「水球の間」の装置類の知識にも長ける。

平民の装いであり、非戦闘員。

GM 向けメモ群

シナリオ進行概略

P1：いくつかの最終サブクエストを実行する。

- ・残り火に襷を（エクセリア）
- ・白銀の魔動天使（リリアーナ）
- ・鍛え上げた太刀（アンドレイ）
- ・後世の民に救済を（トーレス）

P2：P1 から 1 週間後、最後の語り合い。

残り火に襷を（最終サブクエスト：エクセリア）

受注先：システィナ

依頼経緯：1 週間という短期間で傷を癒やせる薬をエクセリアに使いたい

大まかな工程：

マルグリットと話す→ラカロテア樹林に生える夢幻草を採取する（※戦闘あり）
→ラカロテア樹林に住まう“紫電の狂耀”を倒し、「紫電獣の濃血清」を入手（※ランダムドロップ）→マルグリットと話す→水球の間に入る
→水球の間に眠るエクセリアに「夢幻の秘薬」を使う→エクセリアと話す

報酬：

バウンダリー・アーマリーチェスト：各 1 個

エミリア特製のエリクサー：各 5 個

白銀（しろがね）の魔動天使（最終サブクエスト：リリアーナ）

受注先：リリアーナ

依頼経緯：丁度定期メンテナンスの時期になったものの、補修素材がない

大まかな工程：

リリアーナと話す→アンドレイと話す→（※1）→集めた素材をアンドレイに渡す

→リリアーナと話す→マルグリットと話す→アンドレイと話す
→フレイディアのアデライテと話す→リリアーナと話す

報酬：

魔動天使のお弁当：各 3 個

※1：

エルバースラズ大空洞でシャガルマガラから「天廻龍の光玉」を入手する（1 個）

エルバースラズ大空洞でウーツ鉱を入手する（5 個）

コイオス山で霊青岩を入手する（5 個）

コイオス山で霊銀鉱を入手する（15 個）

鍛え上げた太刀（最終サブクエスト：アンドレイ）

受注先：エミリア

依頼経緯：エクセリアの双刀を補修するための金属材がない

大まかな工程：

ファミルと話す

→採掘地点を観察し、魔物がいるのであれば討伐する（5 箇所、うち 3 箇所は敵出現）

→ファミルと話す→アンドレイと話す→エミリアと話す→ジョシュアと話す

→天帝の雫で水を採取→「天帝の浄水」をアンドレイに渡す→エミリアと話す

報酬：

エミリア特製の剛力の秘薬：各 3（※選択）

エミリア特製の眼力の秘薬：各 3（※選択）

エミリア特製の知力の秘薬：各 3（※選択）

後世の民に救済を（最終サブクエスト：トーレス）

受注先：坂本信宏

依頼経緯：医務関連の施設を拡充させ、《暗魂の暁》の衛生状況をよりよくしたい

大まかな工程：

トーレスと話す→ダジボス山嶺 5 合目の廃屋から医学書を入手→トーレスと話す

報酬：

エミリア特製の剛力の秘薬：各 3（※選択）

エミリア特製の眼力の秘薬：各 3（※選択）

エミリア特製の知力の秘薬：各 3（※選択）

共通注釈

※選択：いずれか 1 種類を選択する。他は同一依頼では入手できない。

メモ群

エクセリアの治験

彼女の左腕の原因が、圧倒的なエーテル不足であると判明した。このままでは、エクセリアは片腕を失うことになりかねない。よって、彼女を 3 週間眠らせて、その間に彼女の肉体が秘める「浄化の炎」の力を用いて治癒することにする。

時間を大量に消費するという欠点はあるが、この際は仕方ない。

ファミルを尋ねて

隠れ家の住民

「ファミル？ああ、彼ならダジボス山嶺に向かったよ。『赫耀銀』だっけ？その素材を取ってくるためにね」

どうやら、ファミルは既に出立しているらしい。ダジボス山嶺へ向かおう。

導入

漆黒の空が、ケルディオン近辺を覆ってから。君達は、サロンに集められていた。そこにエクセリアの姿はない。

(※GMメモ：RP 待機)

エクセリアの所在についてエメリーヌに聞こうとした君達だったが、エメリーヌはそれに対して回答を出すことはなかった。

エメリーヌ

「…空が漆黒に染まり、そこかしこで『屍王』ともいうべきアンデッドが現われていると聞くわ。それは、イリヤたちが対応しているからいいとして…。君達には、システィナ、リリアーナ、エミリア、ノブヒコの悩みを解消してもらうわ」

(※GMメモ：RP 待機)

エメリーヌ

「エクセリアは『安全なところ』にいるわ。もし、詳しく知りたいなら…システィナの悩みを聞いてあげて」

そう言って、彼女は事務仕事に戻る。これ以上話しかけても、無視。

山積みとなった書類を片付けることに専念しているようだ。

…君達は、言われたとおりに『課題』をこなす必要がありそうだ。

悩みを抱えているのは、システィナ、リリアーナ、エミリア、ノブヒロ——坂本の4名だという。どれをどの順番でこなすかは、君達に依存することになる。

PC への選択肢

- ・システィナの悩みを聞く（2F 医務室）
- ・リリアーナの悩みを聞く（1F ファイアリンク工芸館）
- ・エミリアの悩みを聞く（2F 老婆の取引所）
- ・坂本の悩みを聞く（1F 栈橋）

（※GMメモ：以降、この選択肢の選択結果次第で項目が変化する。

なお、TRExLap2-14 とは違い、すべて行う必要がある）

残り火に袂ぎを（システィナルート：エクセリア最終）

システィナ

「エクセリアはまた寝込んだ…。彼女の傷が、早く癒えればいいんだけど…」

と呟いているシスティナが、医務室にいた。

（※GMメモ：RP 待機）

システィナ

「今度は何用で…？」

君達は、彼女に動機を語る必要がある。

（※GMメモ：RP 待機。ヒカセンに脳の老化は許されない（真顔））

システィナ

「なるほど、エメリーヌが…。あなた達は知っていますよね。『エクセリアが、時折寝込む』ことについて」

見識判定 目標値：17

成功時、エクセリアの頭が濡れていた事例（Lap2-17）を振り返る。

（※GMメモ：RP待機）

ジョセフ

「そこからは儂が答えよう。儂はジョセフ、システィナの父で医者だ。

あいつの身に重くのしかかっている『宿痾』については、儂がよく知っている。故に彼女への治験の基本的なやり方も心得ているというわけだ」

と言って、ジョセフは一つの図が書かれた書物を見せる。そこに書かれていたのは、蹲った人と、それを覆う円。君達は、この奇っ怪な図を見て困惑するだろう。

まず、この図が何なのか。何を表しているのか…。予想でもいいので、考えてみることを強く推奨する。

（※GMメモ：RP待機。待機時間は長め。ヒカセンに以下略）

ジョセフ

「これは《胎動の水球》と言ってな…。作成時期は不明ではあるが、白樺澄基地よりも下の大深度地下に、復元可能な状態で放置されていた遺構だよ。水球の中では、呼吸ができればでなく、その液が、治癒能力や解呪能力といった潜在能力を引き出すという。

儂はこの水球の能力に目をつけてな…。エクセリアの左腕を解呪できるんじゃないか、と思い立って、彼女の承諾を取りながら試してみたんだ」

（※GMメモ：RP待機）

ジョセフ

「…君達が、彼女の今をどこまで知っているかは置いておこう。結果だけを述べるなら、左腕の石化は解けていた。だがその代償に、3週間もの間、彼女は魂を肉体の奥底に沈める羽目になったのだ」

魂を肉体の奥底に沈める、という言葉聞き、君達は大いに戸惑うだろう。

何者かが何らかの意図を持って造り上げた物が、魂の制御などという神秘の領域に踏み込めるのだろうか？とさえ言えるほどに。

(※GMメモ：RP待機)

ジョセフ

「解析班が全力で解析に取り組んだが…、魂の制御を、一体どのような方法で為しているかは『不明』だそうだ。だがエクセリアが持つ、呪いを焼き払うという潜在能力を加味して考えると、これは優れた性質であるようだな。

さて、要件を言わなければな。君達には、ラカロテア樹林に行き、『夢幻草』と『紫電獣の血清』を取ってきて欲しい」

その名前を聞いたとき、君達はそれが一体何なのか疑問に思うだろう。

だが、よく思い出して欲しい…。君達は英雄である以前に、冒険者だ。

見識判定（対『夢幻草』／『紫電獣の血清』） 目標値：23／26

魔物知識判定（対『紫電獣』：達成値-4 ペナ&弱点不可） 目標値：25

見識判定（夢幻草）成功時、夢幻草の効能や生息域を思い出すだろう。

見識判定（紫電獣の血清）成功時、それが『紫電獣』と呼ばれる、有毒の獣の血清であることが分かるだろう。

魔物知識判定（紫電獣）成功時、『紫電獣』が『アルマンディン・ルノアイコス』という動物の総称であることが分かる。

(※GMメモ：RP待機)

ジョセフ

「…流石に、死地を潜り抜けてきただけはあるか。分かっているなら結構、それを取ってきてもらおうか。『夢幻の秘薬』の調合に使うからな」

君達は、ジョセフから明確に依頼を受けることになった。

だがまず、その知識が正しいのかどうか、植物院にいる雪月花のマルグリットに訊くほうがいだろう。

雪月花の見解

君達は、植物院に向かった。そこで植物の世話をしているマルグリットを見つけることができるだろう。

マルグリット

「どうされましたか？」

(※GMメモ：RP待機)

マルグリット

「はあ。夢幻草と、紫電獣の血清ですか…。夢幻草は、紫色の薬草で、ラカロテア樹林に多く棲息しています。紫電獣の血清を落とす、アルマンディン・ルノアイコスもまた、ラカロテア樹林で見かけることがあります…。それらを調合してできるのは『エリクサー』のはず…。

一体、どのような目的で取りに行くのですか？」

君達は、事情を簡単に、しかし確実に話す必要がある。

(※GMメモ：RP待機)

それを聞いたマルグリットは、深刻そうな表情を浮かべていた。

マルグリット

「…エクセリアに？でしたら、薬草はともかく、血清はより上位の物でなければならないですよ。彼女、その魂が濃く強すぎる影響で、薬効の効きが常人よりやや弱いので。

紫電獣の血清の上位…。『紫電獣の濃血清』しかないでしょう。

それは、アルマンディン・ルノアイコスの二つ名個体…。『紫電の狂耀』と呼ばれる個体から取れるというけれど、とても稀少よ」

(※GMメモ：RP待機)

そしてマルグリットは、現在のラカロテア樹林の状況を鑑みて、注意点を説明する。

それによると、最近はアルマンディン・ルノアイコスが群れを成しているようで、そのボス個体ともいえる『紫電の狂耀』相当の強力な魔物も、かなりの頻度で出現しているのだとか。

マルグリット

「夢幻草の採取中に、魔物が襲ってくるかもしれない。…用心して、念入りの準備をしてから向かってね。このご時世であなた達を失うことは、《暗魂の暁》にとって、大きな痛手になるから」

君達は、念入りに準備した後にラカロテア樹林に向かうことになるだろう…。

ラカロテア樹林で

君達は、ラカロテア樹林に辿り着いた。時刻はまだ日———漆黒の大穴が昇って暫くしたぐらいであり、その悍ましい黒に反して辺りは光源を用いずとも明るかった。

そこで、マルグリットから聞いた、「紫色の葉草」を探すことになる。とはいえ簡単に見つかるもので、ぱっと見ただけでも3箇所、「紫色の葉草」という特徴に合致する葉草は見つかっていた。

君達は、その「紫色の葉草」を採取し、それが「夢幻草」であるかどうかを調べる必要がある。

PCひとりが1dを振り、その出目が「2」以下だった場合、「獣も好む夢幻の草」へ。

そうでない場合、GMが1dを振った後、薬品学（レンジャー観察 or セージ知識）判定を行い、その結果を提示する（なお、目標値は21とする）。

GMの1dの出目が「5」以上だった場合、「夢幻の草」へ。

2回連続で、PCの出目が「3」以上、かつGMの出目が「5」未満だった場合、次は必ず「獣も好む夢幻の草」へ移行する。

はずれ

君達が採取した紫色の葉草は、枯れゆく救難草だった。薬品としての効能はもうないようで、むしろ使ったら毒になることが容易に想像できた。

獣も好む夢幻の草

君達が紫色の葉草を採取しようとする、獣の唸り声を聞くことになる。後ろに振り返ると、そこには大きな獣がいた。獣は、縄張りの食料を奪われたと感じているようだ。

PCのうち、代表として1名が1dを振り、出目が「2」以下の場合、ボス個体となる。

敵：アルマンディン・ルノアイコス×1

君達は「紫電獣」を倒した。

このときにボス個体を倒し、戦利品判定で「11」以上の結果が出た場合、「紫電獣の濃血清」を入手することになる。また、獣が狙っていたことから、その紫色の葉草が、強力な効果を秘めたものであることは容易に想像できた。

(※GMメモ：RP待機)

「夢幻の草」へ場面転換をする。

夢幻の草

君達が手に入れた、紫色の葉草。それは紛れもなく、「夢幻草」という葉草だった。

君達は、次の目的に移る必要があるだろう。なお、この段階で「紫電獣の濃血清」を入手していた場合、この次の段階で討伐回数を重ねる必要性がない。

(※GMメモ：RP待機)

『紫電の狂耀』

夢幻の草を集め始めてから、およそ2時間。漆黒の大穴が最高位置に達しかけるくらいで、君達はそれを見るだろう。青黒い傷を負った、アルマンディン・ルノアイコスだ。

それが、所謂二つ名個体…『紫電の狂耀』であることは、ほぼ確実だった。

(※GMメモ：RP待機)

紫電の狂耀が君達を見つけると、咆哮を上げて君達に襲いかかってくるだろう。

敵：紫電の狂耀

『紫電の狂耀』は、ボス個体のアルマンディン・ルノアイコスから更に生命抵抗力・精神抵抗力+4、HP+100、MP+20の強化修正を受けている他、能力が追加されている。

君達はそれを討ち倒した。

(※GMメモ：RP 待機)

「獣も好む夢幻の草」にて「紫電獣の濃血清」を入手した場合か、この戦闘で「紫電獣の濃血清」を入手した場合は「戦利品剥ぎ取りで「紫電獣の濃血清」入手失敗」をスキップする。

条件を達成していない場合、「戦利品剥ぎ取りで「紫電獣の濃血清」入手失敗」を繰り返す。

戦利品剥ぎ取りで「紫電獣の濃血清」入手失敗

君達は不運にも、「紫電獣の濃血清」を手に入れることはできなかった。

しかし、騒ぎを聞きつけたのか、遠くからこちらに向かって走ってくる、ボス個体のアルマンディン・ルノアイコスが見つかるだろう。

それを倒せば、確率こそ低いものの、「紫電獣の濃血清」を入手することができそうだ。

戦利品剥ぎ取りで「紫電獣の濃血清」を1個以上入手するまで、この戦闘はループします。

敵：アルマンディン・ルノアイコス（ボス個体）×1

水球の間

君達が戻ったのを聞いたマルグリットが、君達の元に駆けつける。

マルグリット

「夢幻草と濃血清は！？」

(※GMメモ：RP 待機)

君達の無事と、必要な素材があることを確認したマルグリットは、君達からそれらを受け取り、すぐに医務室に駆け込んでいく。

システィナ

「…この後に行うのは、エクセリアへの薬剤投与。

でも、彼女は今、聖王家以外の立ち入りを禁じる『水球の間』で眠っている…。

傍流であるとはいえ、アウェアの血を引く私が、特例措置として『水球の間』に立ち入ることを承認します。自らの目で、エクセリアが一体どのような状態なのか…把握する権利そのものは、あると思うから」

そう言って、君達を白樺澄基地へ向かうエレベーターに案内する。

システィナが指を切り、血炎をその手に灯し、エレベーターの端末に手を翳すと、その血炎を認識し、エレベーターの扉が閉まる。

(※GMメモ：RP待機)

エレベーターがゆっくりと下に動き出し、そして少しずつ加速する。

システィナ

「エクセリアが眠っているのは、白樺澄基地の最下層、地下3階よりも更に下…、地下4階とは書かれているけれど、地下3階から2階層分の高さの差がある」

(※GMメモ：RP待機)

そして、エレベーターが止まり、扉が開くと、そこには短い通路になっていた。

システィナ

「ヘタに雑菌を持ち込むわけにはいかないから、ちゃんと洗浄工程を受けるように」

そう言って、システィナは洗浄工程をてきぱきとこなしていく。

(※GMメモ：RP待機)

君達が洗浄工程を経て、君達は最奥へと至る。

…水球の間。そこは、暗く閉ざされた場所に、妖しく光る水球が浮かんでいた。

その水球の中に、エクセリアはいた。衣を一つたりとてつけずに、水球の中で丸くなって眠っていた。生まれたままの姿であるが故に、その傷痕は鮮明に残っていた。

斬られ衝かれ、殴られたような痕の数々。それは、エクセリアが今に至るまで戦ってきたことの、なによりの証拠だった。

それに対し、左腕の石化は解けていた。

ジョセフ

「水球を用いて治癒を行う場合、その肉体の中にある魂が、治癒効果を阻害してしまう。だからこそ、水球には『魂を鎮め、止める』という魔法がかかっている。

その魔法で指定した期間、水球の中で眠る者は目を覚ますことができず、また期間中に起こったあらゆる出来事を認識しない。肉体も含めてな…」

そうジョセフが説明し、懐の薬瓶を取り出す。

ジョセフ

「マルグリットから受け取ったとき、色が濃かったものだから、まさかと思って問いただしたよ。まさか、『紫電の狂耀』を狩ってくるとはな…。おかげで、想定よりも強い効能を、エクセリアの身体に及ぼすことができそうだ」

彼はそう言って、水球の近くにある端末に、薬品を入れて操作する。

端末がピ、と音を鳴らすと、水球に赤い液体が注ぎ込まれる。赤い液体は、無防備なエクセリアの身体に浸透していくと、やがて淡い緑色の光を放つ。5秒も経たずして、その光は失せたが、ジョセフは意外そうな顔をしていた。

ジョセフ

「…まさか、こうも強く効果を発揮するとは…。

魔法の期日は変えられないが、理論上は翌日にでも快癒するほどの効き目だ…！」

(※GMメモ：RP待機)

そう言ったジョセフは、嬉々とした声で水球の間を去って行く。

システィナ

「…夢幻の秘薬、どれくらいのものなのやら…」

それに続いて、システィナがそれを見る。今の君達にとって、この場所に用はないといえる。この場を探索してもいいし、立ち去ってもよい。

探索する場合、探索判定が発生する。

探索（スカウト観察）判定 目標値：23

成功時、端末のすぐそばに、エクセリアの服が、畳んでおいてあることに気付く。

また、目標値より6以上高く成功した場合（または自動成功した場合）、エクセリアの治験に関わるメモ書きが放置されていることが分かる。

（※GMメモ：目標値29成功時、「メモ群-エクセリアの治験」を解放）

システィナ

「もうこれ以上は用がないでしょ？さっさと戻りましょう。…心配かもしれないけど、期限が過ぎれば彼女は目を覚ます。だから安心していいよ」

そう言われ、君達は少々地上に戻るだろう。

…その5分後。眠るエクセリア以外、誰もいなくなったそこで、徐に端末が動作する。表示されていた時間が、164時間45分54秒から、2時間46分18秒へ。

再びカウントダウンが始まり、再び静寂が水球の間にもたらされる。それをエクセリアは認識しない。することができない。ただ単純に、エクセリアの肉体の状態を端末が精査して、魔法の効果時間を自動調整しただけに過ぎないのだから。

これは誰にも気付かれることなく、ただ静かに過ぎていく。

古き蕾は咲き誇り

…そして、3時間後。

君達とシスティナが話しているところに、エクセリアが来た。

システィナ

「エクセリア！？どうしてここに…？」

（※GMメモ：RP待機）

エクセリア

「忘れたとは言わせないぞ。適切な治療を行えば、その効果の分だけアレの効果時間が短くなるのだということを」

そう言って、エクセリアは持ってきていた保温機能付きの水筒を開け、中身を少しばかり飲む。

エクセリア

「…『誰かさん』のおかげで、身体はピンピンしてるよ。さて…仕事を済ませよう。花開いた『古き蕾』を、無駄にしないためにもね」

白銀の魔動天使（最終サブクエスト：リリアーナ）

君達は、悩んだ様子のリリアーナを見かけるだろう。

（※GMメモ：各フレーズRP待機）

リリアーナ

「あっ、冒険者さん。実は、翼部のメンテナンスをするのに必要な材料が不足しているんです。魔動天使は、その機械の部分に関して、きっちりとしたメンテナンスをしたほうがいいんですよ」

「ですが、今回のオーバーホールに際して、『よく熱くなる部分を徹底的にメンテナンスしたほうがいい』と言われてしまいまして…。その部分が翼なんです。それに際して、我が主君が…」

そう言って説明をし始めるリリアーナを見て、君達は唐突に頭痛に苛まれるだろう。

<hr>

過去視にて、君達はその光景を垣間見る。

リリアーナ

「…どう、ですか？我が主君」

エクセリア

「…こりゃあ、近いうちにがつつりオーバーホールしねえとキツツいな。

飛んでいる最中に爆発されても困るからね…」

リリアーナ

「ばくはつ」

あまりにも突拍子もない発言で、リリアーナは目が点になっている。

エクセリア

「これほどのものをオーバーホールするとなると…、霊銀鉱だけでは足りなさそうだ。もっと強固で、耐久性に優れる素材でないと…。そうだ、天廻龍の光玉…！あれを基礎素材に、ミドのお嬢に『より強固で耐久性に優れたタングステン鋼製の翼』を作ってもらえばいいんだ…！」

エクセリアの発想に、終始追いつけていないリリアーナが、そこにいた。

<hr>

リリアーナ

「…ということで、アンドレイさんにこの取り寄せ書を見せてもらってもいいですか？」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、その取り寄せ書を持たされることになる。

《魔動天使の翼》をつくれ

君達は、アンドレイ工房に向かうだろう。

アンドレイ

「どうした。要件があるならさっさと見え」

(※GMメモ：RP待機)

君達が渡した「《魔動天使》の覚書」を見て、アンドレイは渋い顔をした。

よっぽど素材が厳しいのだろう…。

アンドレイ

「どれ——。魔動天使のオーバーホール用の素材を持ってこい、ということか？在庫はそんなにもないんだから…、人手が必要だな…。

冒険者、クライヴとエリックを呼んでこい」

…君達がクライヴとエリックを呼ぶと、エリックが不満そうな表情を浮かべていた。

エリック

「慌てて来てみりゃ、魔動天使のオーバーホールだと…？」

「まあエクセリアの考えだ、『不慮の事故でおっ死んでも困る』ってことなんだろう…」

クライヴ

「それで、俺達は何をすればいい？」

アンドレイ

「ちょっとしたお使いだ。リリアーナからの注文は《タングステン鋼製の翼》——現状のあいつの翼とは同形状だが、その材質が違う。要求されたものを踏まえて考えれば、これらの鋼鉄じゃ、脆くて要件を満たせねえ。

だから、指定された材料を用いて独自の鋼鉄を造ることにした。その名も、『エーテルアルタングステン鋼』。こいつの材料を集めてきてくれ」

(※GMメモ：RP待機)

クライヴ

「シャガルマガラの『天廻龍の光玉』に、ウーツ鉱、霊青岩に、霊銀鉱か…」

エリック

「エーテル伝導率を高めて、魔動天使の翼の性能をカタログスペックからある程度引き上げるだけってことか？まあそれならそれで、やり方を考えたほうがいいだろう…」

アンドレイ

「全部、鉱石を取ってこいよ？」

そう言って、ニヤリと笑うアンドレイ。

困った様子の2人は、少し考えた末に、君達に向く。

エリック

「鉱石の位置を、お前達に探し当ててもらうぜ。それと、シャガルは…」

クライヴ

「俺と一緒に来てもらう。先にシャガルマガラを倒すほうがいいだろう」

「シャガルマガラの討伐／ウーツ鉱」「霊青岩・霊銀鉱」に分岐します。

選択した分岐に応じて、発生するイベントが変化します。

アンドレイ

「ウーツ鉱はエルバースラズ大空洞に、霊青岩と霊銀鉱はコイオス山にある。シャガルマガラは…お前達も遭遇したことがあるはずだ。死ぬなよ？」

天を巡りて（シャガルマガラの討伐／ウーツ鉱）

君達は、エルバースラズ大空洞に到着した。

クライヴ

「よくここにいるとは思うが…、果たして出てくるかどうか…」

そう言って辺りを見ていると…、やけに傷ついたシャガルマガラを見つける。

（※GMメモ：RP待機）

クライヴ

「死にかけのやつがいるな…。あれから掻っ攫うとしよう」

敵：シャガルマガラ（死にかけ）

君達は、シャガルマガラを討伐した。

その死体を観察したクライヴは、「なぜ死にかけていたのか」を把握した。

クライヴ

「…毒にやられていたようだな。そっちは？」

（※GMメモ：RP待機）

クライヴ

「そうか、あったか…。よし、次はウーツ鉱だ」

君達は、ウーツ鉱を探して歩き回った。

岩肌に茶褐色の鉱石を見つけることがあるが…、それが果たしてウーツ鉱なのか、調べる必要がある。

探索（スカウト or レンジャー観察）判定 目標値：23

成功時、GM は発見鉱石表（シークレットダイス）を振り、続けて宝物鑑定判定。

宝物鑑定（スカウト観察 or セージ知識）判定 目標値：23

～発見鉱石表：エルバースラズ大空洞～

1：鉄鉱。求められた鉱石ではないが、鉄の在庫次第では必要かもしれない。

2：茶色褐鉄鉱。求められた鉱石ではないが、精錬すれば鉄を取り出せそう。

3：赤鉄鉱。求められた鉱石ではないが、精錬すれば鉄を取り出せそう。

4：闇鉄鉱。求められた鉱石ではないが、精錬すればダークスチールを取り出せそう。

5：ウーツ鉱。鉱脈は小さい。（獲得量+1）

6：ウーツ鉱（獲得量+2）

クライヴ

「ウーツ鉱は見つかったか？」

そう言って、君達に成果を聞いてくる。

（※GM メモ：RP 待機）

クライヴ

「…目的のものはあったようだ。地図に記しておく。後でエリックに知らせよう」

誰も手を出さぬ鉱脈（霊青岩・霊銀鉱）

君達は、コイオス山に到着した。

そこで、君達は目的のものを探す必要がある。

まず、GM（シークレットダイス）と PL 代表 1 名が 1d を振り、その出目の合計に応じて進行度を決定する。その後、探索判定を行う。

探索（スカウト or レンジャー観察）判定 目標値：23

成功時、GM はイベント表（シークレットダイス）と発見鉱石表（シークレットダイス）を振り、続けて宝物鑑定判定。

イベント表にて、敵が出現した場合、宝物鑑定判定の結果を伝える前に危険感知判定、その後戦闘。

宝物鑑定（スカウト観察 or セージ知識）判定 目標値：23

危険感知（スカウト or レンジャー観察）判定 目標値：25

危険感知失敗時、先制判定に自動失敗する。

～発見鉱石表：コイオス山～

- 1：霊銀鉱の鉱脈。「霊銀鉱の獲得量」+1、「霊青岩の獲得量」+1。
- 2：霊銀鉱の大鉱脈。「霊銀鉱の獲得量」+2、「霊青岩の獲得量」+1。
- 3：白金鉱の鉱脈。「2d6>=7」で「霊銀鉱の獲得量」+2。
- 4：白金鉱の大鉱脈。「2d6>=7」で「霊銀鉱の獲得量」+2、「霊青岩の獲得量」+1。
- 5：精霊銀鉱の鉱脈。「霊銀鉱の獲得量」+2、「霊青岩の獲得量」+2。
- 6：光霊銀鉱の鉱脈。「霊銀鉱の獲得量」+5、「霊青岩の獲得量」+3。

～イベント表～

- 1：強敵の気配を感じた。続けて「エンカウント表」を、補正值+1の上で振る。
- 2：敵の気配を感じた。続けて「エンカウント表」を振る。
- 3：平穏。
- 4：何も起こらなすぎて、歩きすぎてしまった。進行度を1d点加算する。
- 5：鉱脈の密度が高いところを発見した。各種鉱石の獲得量+1。
- 6：複数の鉱脈が重なった場所を見つけた。発見鉱石表を2回振る。

～エンカウント表～

- 1：アカシック・スター・ドラゴン×1、レッサー・エピメサテュロス×3
- 2：レッサー・エピメサテュロス×2
- 3：ストレイ・ルノアイコス×4
- 4：煌衣纏いしシャガルマガラ
- 5：ストレイ・ルノアイコス×2、ストレイ・ホラー×1
- 6：敵の気配を感じたが、気のせいだった。

君達は、指定された材料の所在位置を確定させることに成功した。

クライヴ

「…位置はメモしたぞ。後でエリックに伝えよう」

ここで、進行度が40以上になっていた場合、「コイオス山のヌシ」へ。

コイオス山のヌシ

君達が戻ろうとすると、竜の咆哮が響く。

(※GMメモ：RP待機)

クライヴ

「こいつは…！？」

全身が棘に塗れた、大きな龍。それが、明らかに君達に敵意を向けている。

クライヴ

「…大丈夫だ、俺達はお前の敵ではない。…鉱石を少しもらっていくぞ」

(※GMメモ：RP待機)

…しかし、その龍は、未だに敵意を向け続けている。君達が掘り当てた鉱石に、独占意識のようなものがあるのだろうか？だが、君達が堂々とそこから去ると、その龍の敵意は消えた。振り返っても、そこにそれはいない。

クライヴ

「噂には聞いていたが…、あれが『コイオス山のヌシ』か…」

古龍を脅かす獣牙

君達は、クライヴと共にエリックの元に戻った。

エリック

「戻ってきたか」

クライヴ

「場所は特定したぞ。…そっちは大丈夫か？」

(※GMメモ：RP待機)

地図を見て、エリックはやや厳しい目を向けていた。

エリック

「コイオス山の鉱脈の位置、全部『滅尽龍』の縄張りに入ってるじゃねえか。こりゃあ、鉱山会社を営む社長としての視点でも、経費は高くつくぞ」

(※GMメモ：RP待機)

クライヴ

「何のために、俺がいると思っている？それに、近頃はジョシュアも戦線復帰している。俺の意見として呼べば、あいつも駆けつけるだろうさ。それに、俺達は顕現すればいい。幾ら古龍と言えど、召喚獣の力は侮れないはずさ」

そう言って、クライヴはエリックを諫める。

エリック

「そうだな。だが無茶はするなよ？」

クライヴ

「お前達は、今回掘った鉱石を持って『隠れ家』に戻ってほしい。アンドレイによろしく伝えてくれ」

(※GMメモ：RP待機)

そうして、君達は隠れ家へ帰還し、アンドレイに伝えるだろう。

アンドレイ

「この量は…、なんとか、2人分いけそうだな」

(※GMメモ：RP待機)

君達は戸惑いながら、アンドレイに目を向けるだろう。

アンドレイ

「アデライテだよ。

あいつも、丁度メンテナンスの時期なんだ。最も、あいつはフレイディアから出てこねえ。リリアーナのオーバーホールが済んだら、フレイディアに向かってくれ。あいつは、理由がなければ出てこねえからな」

(※GMメモ：RP待機)

リリアーナのオーバーホール完了を待つ間、君達は『滅尽龍』について調べてもよい。

魔女の一撃（クソギックリ）

君達は、オーバーホールを終えたリリアーナに声をかけた。

リリアーナ

「冒険者さん…。次はどちらに？」

（※GMメモ：RP待機）

リリアーナ

「えっ、アデライテも！？」

心底驚いた様子で、リリアーナは君達を見る。

（※GMメモ：RP待機、またBGM「陽気な大騒動」）

明らかに動揺している。「やらかしたあああ！」とか、「最初から言ってよアンドレイのおっさん！」とか…、ひょっとしなくても、君達が止めなければ罵詈雑言が無限に溢れるのではなかろうかという発言を繰り返していた。

（※GMメモ：RP待機）

リリアーナ

「ごめんね…、目の前で動揺しちゃって。

先にアデライテの元に行っててね。後で追いつくから」

と、リリアーナが震え声で言う。

まったくもって説得力を得ていないが、彼女のことを信じて向かうことにしよう。

…無限に落ち込んでいるリリアーナを見たくないのであれば。

<hr>

君達がフレイディアの《暗魂の暁》に到着して、ギルドの建物内に入ると、そこでぶっ倒れている魔動天使と、彼女を気遣う魔動天使とナイトメアがいた。

ナイトメアの女性

「…おい、“無愛無垢”？いい加減メンテナンス受けるって、鍛冶師のクソジジイに言われてなかったのか？」

魔動天使の少女

「私はちゃんと受けたんですから、あなたも受けなきゃいけないですよ、アデライテ！
いくら魔動天使と言えど、身体は資本なんですから！」

(※GMメモ：RP待機)

君達がナイトメアの女性に声をかけると、彼女は君達に気付き、「お前達は、メインフォワードの…」と呟く。

その言葉の先を言う前に、魔動天使が突っ込んでくる。

魔動天使の少女

「アデライテ、メンテナンスを受けてないんですよ！いい加減受けさせたいので、リリアーナ呼んでもらっていいですか！」

…と、クソデカボイスで訴えてくる。

思わず、爆発音に晒されたかのような、耳鳴りを感じてしまうだろう。

(※GMメモ：RP待機)

ユハ・サハ

「…ルナナ？本題の前に自己紹介ぐらいしろよな。私はユハ・サハだ。アデライテとは…その、なんだ。エクセリアに鉄拳でシバかれた者同士？」

ルナナ

「エクセリアさん強かったですよねー！私にさえ、『死なない程度に殴る』？みたいなことをしてきましたから」

(※GMメモ：RP待機)

そこへ、リリアーナが訪れる。

リリアーナ

「アデライテ」

アデライテ

「…何だ、用件を言え。…こっちは盛大に『魔女の一撃』を食らって動けないのだ」

リリアーナ

「メンテナンス」

その言葉を聞いたアデライテが、吐血した。

…別に致命傷になったわけではないようなので、単に嫌すぎて…というもののようだ。

それを聞いたユハ・サハが、アデライテをお米様抱っこして、隠れ家へと連行していったのを見た君達は、そんな彼女を追いかけるルナナを見ていることしかできなかった。

…担がれているアデライテの口から魂が出ているように見えたのは気のせいだろう。

<hr>

帰宅後、リリアーナに改めて感謝された。

リリアーナ

「…身体が資本なのは、どんな種族でも変わりませんからね。さて…いよいよですね。

私達は防衛しかできませんから、我が主君含め、よろしくお願いします。必ず生きて帰ってきてくださいね！」

鍛え上げた太刀（最終サブクエスト：アンドレイ）

君達は、エミリアに話しかけられた。

エミリア

「あ、冒険者。丁度よかった、話を聞いてくれないかい？」

（※GMメモ：RP待機）

エミリア

「実はね、アンドレイが困っていたんだ。なんでも、『結月と月光を直すための素材が足りない』んだとか。エクセリアの双刀は繊細だ、ちょっとでも材料の質が低いと、それに呼応して性能が下がってしまう。

だから、強靱で、かつ耐久性の高い素材を要求しているんだ。問題は要求された素材。エクセリアの双刀のうち、結月については、残り火を魔法の体裁で撃ち出すという補助機構が備わっているんだけど、このために使う金属が特殊なんだ」

そう言って、彼女はカウンターに 1 個の延べ棒を置く。
赤い金属光沢を持ち、そしてその内に強力な魔力を感じるような、そんなもの。

(※GM メモ：RP 待機)

エミリア

「アビスリンカー・ハイミスライト。禊の聖地で取れる光霊銀鉱と、赫淵銀鉱、灰重石、鉄重石、鏡鉄鉱を、それぞれ 9 対 6 対 2 対 2 対 1 の比率で合金にした、『赫耀銀』と呼ばれることもある金属さ。うちでも作れるけど、そのための在庫がないんだ…」

君達は、聞き慣れない単語を耳にして、困惑しただろう。
そもそもアビスリンカー・ハイミスライトとはなんぞや、と言うレベルで。

(※GM メモ：RP 待機)

君達の疑問を聞いたエミリアは、盛大にため息をつく。

エミリア

「赫耀銀、という金属は、その材質からは想定できないほどの軽さを持つ。それは、魔法的に鍛え上げられたからこそ成り立つもの。そして何より、これを糸に加工して、繊維としてつくると、強力な服になる」

(※GM メモ：RP 待機)

エミリア

「そういうこと。まずはファミルに話を通して。いいね？」

凧の先のイグニッション

君達は、ファミルを探す必要がある。

聞き込み判定（冒険者+知力） 目標値：25

成功時、「メモ群-ファミルを尋ねて」を解放しつつ、「隠れ家にいない」ということを開示する。

そして君達は、ダジボス山嶺へと辿り着く。

ファミル

「あんたがたは…。もしかして、エミリアのばあさんに頼まれて？」

（※GMメモ：RP待機）

ファミル

「ああ、丁度よかった。俺は子分たちと一緒に採掘をする。あんたがたはその時に現れる敵を倒してくれ！」

（※GMメモ：2箇所目、3箇所目、5箇所目で敵が出現する）

敵：ライトニングパンサー×3（2箇所目）、ヘルデュエラー・サブリング×2（3箇所目）、神喰らいの獣×1 & ブラキディオス・ダイヤモンド×2（5箇所目）

敵を倒し終えたところで、ファミルが君達に声をかけてくる。

ファミル

「おう…。助かったぜ。先に隠れ家に戻ってる。また後でな」

（※GMメモ：RP待機）

結月という名の所以

君達が隠れ家に戻ると、ファミルが声をかけてくる。

ファミル

「さっきは助かったぜ。とりあえず、取ったものはアンドレイに渡しておいた。今から作る金属の詳細について、知りたければ聞きに行けばいいぜ」

(※GMメモ：RP待機)

彼に言われたとおり、「アビスリンカー・ハイミスライト」を一体どの目的で使うかを聞きに行ったほうがいいだろう。

アンドレイ

「どうした？今から結月の修理を始めようと考えていたんだが」

(※GMメモ：RP待機)

アンドレイ

「…アビスリンカー・ハイミスライトか。確かに、作ろうとしていた金属だ。それは、ミスリルやミスライトよりも高い魔力伝導性を持つ。これを刀身に組み込むことで、エクセリアの内に宿る浄火を、簡単に魔法に変換できるというからくりだ。双刀を持つが故に片手を用いて発動するはずのマジックバーストを行えないという欠点を解消できる」

そう言ったアンドレイの顔は曇っていた。恐らく、鍛冶師としてのプライドが、その事実を直視しているのだろう。

(※GMメモ：RP待機)

アンドレイ

「そして、今まで集めてもらった金属では、こいつを組み込むところまではできるが、刀がなまくらになっちゃう。そこで、天帝の浄水を持ってきてもらう。

最近、リハビリを終えたって言う話の、フェニックスのドミナントと協働して、水源地である『天帝の雫』から取ってきてくれ」

そう言って、またしても『お使い』を頼むアンドレイ。

(※GMメモ：RP待機)

君達はそれを受諾し、再びエミリアに話しかけることになる。

(※GMメモ：RP待機)

エミリア

「天帝の浄水い？また面倒なものを…。いや、『結月』の最終強化には必要な代物か…。

君達はさ、エクセリアの持っている双刀の、『結月』と呼ばれているほうの正式な名前を知っているかい？」

そう言って、君達の知識を試してくる。

(※GMメモ：RP待機)

エミリア

「実を言うとね、『結月』という名は後から付けられたものなんだ。元々、エクセリアの刀に名前はない。

これを模倣して、魔法王どもが作った刀に『結月』という銘がつけられた。だから、その贋作が目指した真作であることを加味して、あの刀は『結月』とつけられた」

(※GMメモ：RP待機)

エミリアの説明に、君達は相づちを打つしかなかった。内容が理解出来ない。

エミリア

「ただ、ある魔法王は、真作であるエクセリアの刀に迫る刀を作って、その力によって、彼が支配した王国ごと滅んだという。その時に生じた難民たちの一族は、代々子孫たちにこの詩を継承したという。

『数多の刀を鍛えし時 終わりを尽く滅ぼす機構は現れん』と」

…『終わりを尽く滅ぼす機構』という名は、一体何を示すのだろうか。

それを考える間もなく、エミリアは君達に、本題とも言うべき話をする。

エミリア

「さて、天帝の雫に行くんだったね。フェニックスのドミナント…ジョシュア・ロズフィールドは医務室にいる。気を付けて行ってね」

(※GMメモ：RP待機)

彼女に指示されたまま、医務室へ向かう。

そこで、すごくショボショボになりながら人参を食べる金髪の青年がいた。

ジョセフ

「好き嫌いは毒だぞ」

ジョシュア

「だからって、全部食べないと医務室から出さない、っていうのは脅迫だよ…」

(※GMメモ：RP待機)

ジョシュア

「君達は…？」

君達が事情を説明すると、ジョシュアは興味深そうに頷く。

ジョシュア

「天帝の雫から、天帝の浄水を取ってこい、か…。分かった、手伝うよ。丁度、人参をなんとか食べきったからね」

——ジョシュア・ロズフィールドは人参が嫌い。

かつて、彼の兄に聞いた言葉と一致した。

(※GMメモ：RP待機)

<hr>

君達は天帝の雫で、ジョシュアによる「天帝の浄水」回収作業の手伝いをした。

ジョシュア

「いよいよ、彼女は『律』を…その尖兵たる神城まどかを倒し…、この世界の崩壊を止めようとするんだね」

(※GMメモ：RP待機)

ジョシュア

「兄さんから聞いていたんだ。『エクセリアは律への叛逆を完遂する』と。
彼女は…ひとりで背負いすぎるんだ。今人には分からないから、なんて言ってね。
だから、そばで彼女を支えてあげてほしい。僕達は…隠れ家を守るから」

そう言って、君達に未来を託す。
受け取った「天帝の浄水」を、アンドレイに届けよう。

終わりゆく世界

君達は、隠れ家に戻り、アンドレイに「天帝の浄水」を渡した。

アンドレイ

「助かった。これで仕上げを行える。
…いよいよ、最後の戦いだな。必ず生きて戻れよ、冒険者」

(※GMメモ：RP待機)

後世の民に救済を（最終サブクエスト：トーレス）

君達は、栈橋で思案する坂本に声をかけた。

坂本

「ああ、君達か。丁度よかった。トーレス大佐が、隠れ家の医療施設を強化したいと言っ
ていてな…。詳しい話は彼に訊いて欲しい」

(※GMメモ：RP待機)

坂本

「私は、あくまで彼の新たな指針を支援するだけです」

そう言って、深く言うことを拒否した。
だが…トーレスが為したいことを聞くのはアリだろう。

1000 万人救済計画

君達は、トーレスに話しかけた。

トーレス

「…100 万人を生贄にするよりも、圧倒的に難しい照準だ。これをぶち抜くのは、人道的にもエレガントだ」

(※GM メモ：RP 待機)

トーレス

「坂本から？既に、方々に手は回しているが…。何？やってほしいことを、詳しくは俺に聞けと？…ああ、単純な話だ。

俺はかつて、敵国にいる 100 万人の命を奪い、やがて戦争で殺される 1000 万人を救済しようとした。だが先んじて、信頼できる者にその計画を話した。殴られて、俺がやろうとしていたことの重さに気付いたよ。

それで、彼女はこう言ったんだ。『ヴァルマーレには発達した医学という、人々を救済できる力がある。それが龍刻をはじめとする国々に渡れば、戦争でなくとも 1000 万人を救うことができる』と。だから君達には、ダジボス山嶺の廃屋にあるという医学書を取ってきて欲しい。それだけで十分だ」

(※GM メモ：RP 待機)

あまりにも単純な話であったため、君達は首をかしげることになる。

トーレス

「ここ龍刻では、政体変更前に『禁書』として扱われたものだ。もしかしたら、焚書しようとする連中に絡まれるかもしれん…。『念入り』に、準備をするんだ。いいな？」

律に従うもの、刃向かうもの

君達は、ダジボス山嶺の 5 合目にある、既に廃れた集落に足を運んだ。

指定された廃屋に、大量の書物があった。

(※GM メモ：RP 待機)

探索判定 目標値：25

成功時、現実で言えば「解体新書」のような医学書を入手する。

(※GMメモ：RP待機)

君達が目的のものを手に入れ、廃屋から出ようとする、黒装束の男が複数人いた。

黒装束の男

「——こんなところで先客に出くわすとは。まさかとは思いが…、禁書を持ち出そうなどと考えてはいないかね？」

(※GMメモ：RP待機)

黒装束の男——執行者は、君達の反応を見て通告する。

執行者

「単刀直入に言う。貴様らが持ち出した禁書を、速やかにこちらへ渡せ。禁書故に、それに記されたすべてを、永遠に葬り去る必要がある」

(※GMメモ：RP待機)

執行者

「やれやれ、仕方ない…。残念だが、力尽くでいただくことにしよう。」

敵：執行者の手先×6

執行者

「見事な腕前だ。貴様らから奪うのは難しそうだな」

(※GMメモ：RP待機)

執行者

「ここ龍刻では、建国から今に至るまで、魔法を用いた医療体系を維持してきた。

そのような書物が出てしまうと、その伝統が崩壊してしまう。その本に対する解釈に、『正しさ』は存在しない。事実の羅列に、どんな意味を与えるかの問題でしかない。

故に、人の数だけ『正しさ』がある。我々『執行者』は、龍刻の伝統に従う『人』の守護者。人を害する知識や伝承を、この世から葬り去るが務め。それだけのことだ。

今回は、貴様らに譲るとしよう。世界は狭い…。またどこかで、合うことがあるかもしれない。ではな…」

そう言って、執行者は消えるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

君達は、目的のものを手に入れた。隠れ家に戻り、トーレスに届けよう。

<hr>

トーレス

「戻ったか」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「執行者…。未だ、動いているとは。よく聞け。執行者とは…旧来派に属する者達だ。

我々にとって敵になるような者達ということになるが、『今回は』譲ってくれるのか」

そう言って、トーレスは深く考える。

トーレス

「この本を、ジョセフやマルグリットと共有しよう。仕事は終わりだ。いよいよ戦いだ。

恍惚のために滅びをもたらす律を打ち倒し、後世の民に救済を齎してくれ」

最期の赦し

…1週間後。君達は、最後の戦いに赴くことになる。

エクセリア

「…いよいよ、今日だ。今日を逃せば…本当に、律がもたらす『愉悦のための滅び』によって、この星は砕かれてしまうだろう」

(※GMメモ：RP待機)

リリアーナ

「我が主君…」

エクセリア

「彼らと共に、最後の戦いに赴く。他の皆は、ここを死守してくれ。

…神城まどかとは…私自身の意志で、ケリを付ける」

報酬

経験点

15000 点

資金

15000G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

7 回

その他報酬

バウンダリー・アーマリーチェスト：1 個

エミリア特製のエリクサー：5 個

魔動天使のお弁当：3 個

選択報酬 1：

エミリア特製の剛力の秘薬：3

エミリア特製の眼力の秘薬：3

エミリア特製の知力の秘薬：3

選択報酬 2：

エミリア特製の剛力の秘薬：3

エミリア特製の眼力の秘薬：3

エミリア特製の知力の秘薬：3